

抗 E2F1 p-Ser364 抗体、マウスモノクローナル(#2)

71-151 100 µg

保存： 4℃または-20℃で送付、-20℃で保存

抗原：ヒト E2F1 タンパク質の phospho-Ser364 を含む合成ペプチド

形状： 精製 IgG 1 mg/ml in PBS- with 50% glycerol

精製：Ser364 がリン酸化したヒト E2F1 タンパク質に特異的に反応するマウスモノクローナル抗体 (# 2)。

無血清培地で培養した培養上清より、マイルドな方法で精製した。

Isotype: マウス IgG2b κ

反応性：ヒト。他の動物ではテストしていない。

用途

1. ウェスタンブロッティング (~1µg/ml)

2. ELISA

他の用途は調べていない。

背景： E2F1 タンパク質は共通の構造と機能ドメインをもつ E2F グループに属し、転写因子として動物細胞における G1/S 期移行に重要な役割を果たす (1)。E2F1 は DNA 損傷に反応して、Chk2 キナーゼによって Ser364 がリン酸化され、安定化され、核に移行して、転写因子として活性化される (2)。E2F1 は p53 のホモログである p73 の転写を活性化して、アポトーシスを誘導する (3)。E2F1 タンパク質は 437 アミノ酸より成り、分子量が約 46 kDa である。

データリンク UniProtKB/Swiss-Prot [Q01094](#) (E2F1_HUMAN)

文献

1. Trimarchi JM & Lees JA "Sibling rivalry in the E2F family."

Nat Rev Mol Cell Biol 3:11-20(2002) PMID: [11823794](#)

2. Stevens C et al "Chk2 activates E2F-1 in response to DNA damage." *Nat Cell Biol* 5:401-409 (2003) PMID: [12717439](#)

3. Irwin M et al "Role for the p53 homologue p73 in E2F-1-induced apoptosis." *Nature* 407:645-648 (2000) PMID: [11034215](#)

図. モノクローナル抗体 # 2 を用いた Ser364 がリン酸化された E2F1 タンパク質の同定。

MCF 細胞を DNA トポイソメラーゼのインヒビターである Etoposide (10 µM) 存在下 (レーン 2、3) または非存在下 (レーン 1) で 16 時間培養して、細胞粗抽出液を調製して、#2 抗体を用いてウェスタンブロットで解析した (レーン 3)。レーン 1、2 はパントロピックな抗 E2F1 抗体で免疫沈降してから #2 抗体でウェスタンブロットした。

